

●雑詠 娘二人早大卒、細川護熙さんより国政勧誘、義母臨死体験など 九二年一〜六月

お地蔵に ひれ伏す老女 霧ふかし（日吉・鯛ヶ崎公園にて）

お神酒干し すべては運命と断ず 卒寿翁（義母退院の日、義父と缶ビールで新年を賀す）

義母（はは） 卒寿 ゲートボールに 春陽さす

卒業し 稲門に立つ 吾子二人（九二年三月二五日、長女・文、次女・政経を卒）

卒業に 蕾も固く 華やげず（お堀端のフェアモントホテルで夕食、桜は一分咲き、慶びも一分咲き）

花の下 還暦過ぎし 腕を組む（高田東公園で）

春雷に 吠え掛かりける 小犬かな

春雷の 轟く彼方 雲疾し

新党へ 誘いの電話 青嵐（5. 15 細川護熙氏からKSPに電話あり、参議院候補へ丁寧な勧誘）

梅雨寒に 臨死体験 語る義母（はは）

（マンションの階段で転び、四〇分間意識不明。この間臨死体験をしたもよう。美しい花園に行く  
と夭折した長男が現れ、こっちへ来てはいけないと押し戻されたという）

梅雨空に 上棟作業 バングラ人（棟梁の指揮で 鉢巻して働く外国人労働者）

万緑の 底に沈んで 目を閉じる

障害児 付き添う母の 若白髪

奇声出す 子を抱き寄せる母 しわ深し

友もまた 老母を抱え 梅雨の空（熱海市の高橋英典氏と電話す）

老母病み 妻は倒れて 友は老ゆ（同上）

友老いて 昔料亭 今縄のれん（同上）

中研で 同期の友が 梅雨に逝く（六・二七 中国研究所の同期、横浜国大・本橋教授死去）

日本の革命夢見しわが友を 野辺に送りて一人酒飲む

ソの公使 任期を終えて 露に帰る（九一年十二月ソ連邦解体 九二年六月ささやかな送別会）

任期中 国を失くせるソの公使 苦しく笑みて露国に帰る（九二・六・三〇 同上）